

IV 子ども読書活動推進のための様々な取組

実践① 霧島市立青葉小学校

1 はじめに

本校は、全校児童376人、学級数17学級の中規模校である。霧島市国分の北部に位置し、北に高千穂の峰、南に桜島を遠望できる自然豊かな環境にある。青葉小学校の名の由来は、校区にある日枝神社境内に生育している台明竹から作られた「青葉の笛」に由来している。

平成9年度に開校し、本年度、創立22周年という比較的新しい学校である。読書活動に関しては、平成10年に発足した親子読書会「おはなしの森」と読み聞かせ活動を連携したり、PTAの協力を得て平成20年度に学校図書館コンピュータ化を導入したりして、子供たちの読書意欲を向上させる取組を積極的に推進してきている。

平成29年度・30年度の2か年間、県指定の「読書指導」の研究に取り組み、29年度はこれまでの活動が認められて第11回高橋松之助記念「朝の読書大賞」を、30年度は「子どもの読書活動推進実践校」文部科学大臣表彰も受賞することができた。

2 読書活動の取組内容

【定期的に行っている取組】

- ① 読書目標冊数の設定
(低学年140冊, 中学年120冊, 高学年100冊)
- ② 図書館オリエンテーションの実施
(4月全学級実施)
- ③ 「朝の読書」の実践
始業前の8:05~8:15(10分間) 毎日実施
- ④ 読書月間等の取組(6月・10月・2月)
- ⑤ 読書タイムの取組(8:30~8:45の15分間)
- ⑥ 保護者・親子読書会・図書館ボランティアによる読み聞かせ
- ⑦ 図書館ボランティアによる本の修繕
- ⑧ 担任・交流学級(担任・児童同士)による読み聞かせ
- ⑨ 図書館だより
(学校司書:毎月1回以上, 図書委員会:学期1回)
- ⑩ 毎月23日を「家読(うちどく)の日」と設定し、
家庭で親子一緒に読書を実施(感想等を提出)

【イベント的に行っている取組】

- ① 読書月間等の取組(ビンゴゲームは毎回実施)
 - 読書旬間(6月)→ポップ作り
 - 読書月間(10月)→ビブリオバトル
 - 読書週間(2月)→放送DEビブリオバトル、
絵本メニュー給食
- ② 読書タイムの取組(8:30~8:45の15分間)
 - 担任による読み聞かせ(4・9・1月)
 - ブックトーク, アニマシオン
(5・11・12・1月)
 - 学年部での読み聞かせローテーション
(5月)
 - 交流学級の児童同士の読み聞かせ
(6・11月)
 - 保護者による読み聞かせ(わくわく読書
) (6・10・11・2月)
 - ボランティアによる読み聞かせ
(7・12・3月)
 - 親子読書会による緑陰読書(8月)
 - 読書集会(10月)
 - トレジャーブック(2・3月)

3 活動の実際

(1) 朝の読書

毎朝、始業前の8時5分から15分に実施している。学級文庫や図書館から自分が借りている本を読んでいる。子どもたちの心が落ち着き、スムーズに授業に入ることができている。



【朝の読書の様子 1年生】

(2) 全校一斉のビブリオバトル

平成26年度から読書月間に、全学年で取り組んでいる。1・2回戦は、学級で朝の活動の時間などを使って行い、決勝戦を図書館で行っている。ビブリオバトルワークシートやどのように紹介文を書いているのか分からない子どもが取り組みやすいようにビブリオバトルメモ用紙を準備し、紹介ポイントそれぞれについて短冊型にして書き入れることができるように準備している。毎年、決勝戦の投票方法なども少しずつ改良している。これまで5年間継続して取り組んできたことで、昨年度の決勝戦ではどの学年も、素晴らしい内容であった。



【6年生のビブリオバトルの様子】

(3) 多種多様な読み聞かせ活動

ア 交流学級による児童同士の読み聞かせ（6・10月の読書タイムに実施）→上級生から下級生へ、下級生から上級生への読み聞かせ

イ 図書委員会児童による読み聞かせ（6・10・2月の読書タイムに実施）

ウ 給食時間の放送による読み聞かせ（2月の読書週間に実施）→絵本に出てくるメニューを学校給食として献立に組み込む、その絵本の読み聞かせ

エ 担任以外の読み聞かせ（学期1回読書タイムに実施）→管理職、養護教諭、事務職員等全職員で実施

オ P T A図書部の読み聞かせ（学期1回各学級で実施）→P T A専門部として活動

カ 図書館ボランティアによる読み聞かせ（学期ごと1回学年で実施）→図書館ボランティアは保護者から募集、本の修繕や読み聞かせ等の実施

キ 親子読書会による読み聞かせ



【親子読書会読み聞かせ「大型紙芝居」】



【メニュー給食「おでんもおんせん」】

(4) 家読（うちどく）の推進

毎月23日は、子どもといっしょに読書をする日として、家読に取り組んでいる。より本に親しむ、親子で一緒に穏やかな時間を過ごすことを目的としている。子どもの年齢や読書の発達段階、その時々での状況に合わせて取り組んでもらうように保護者に文書や学級P T Aで説明をしてから取組をスタートさせた。保護者の感想から、子どもの成長を感じたり、親子で過ごす時間を大切に感じたりしていることが伺える。読書をきっかけに親子のコミュニケーションが深まっている。



親子で読み合
いっこをして楽
しかった。

下の兄弟たちも
うれしそう。妹に
本を読む姿を見て
成長を感じた。

4 おわりに

読書のための環境を整え、生活リズムの中に読書を組み込み、P T A等の協力の下様々な読書活動を実践してきたことで、子どもたちの読書冊数は増え、ジャンルも広がり、読書好きの子どもたちが増えてきている。また、多くの家庭から読書活動の取組に対して肯定的な意見が寄せられている。これからも、学校司書・司書教諭を中心としながら、読書指導年間計画をベースに、「読書活動日本一の学校」を目指して様々な取組を行っていききたい。

※ ビブリオバトル普及委員会では、ワークシートやメモの作成を推奨しているわけではありませんが、青葉小学校では児童の発達段階を考慮して作成しています。